

廃校を地域の新たな資産に



小中学校は、地域コミュニティの中心を担う大切な場所です。市では廃校を活用して、長期にわたり持続可能な施設にするとともに、住民の交流や地域経済が活気づく場になるように取り組みを進めています。

問資産活用課（本庁舎内） ☎ 82-0029

全国的に増える廃校と活用の課題

少子化に伴う児童生徒数の減少や、過疎化・市町村合併などにより、全国的に学校の統廃合が進んでいます。その結果、全国で毎年約470校程度の廃校施設が生じています。

しかし、学校は地域住民の思い入れも強く、廃校になったとしても簡単に取り壊すわけにはいきません。

一方で、人口減少により財政規模が縮小している地方においては、廃校の修繕費用などの維持管理が課題となります。

また、地域住民だけでは廃校をなかなか活用しきれないという現状があります。さらに、民間での活用を進めたくても、建物の規模が大きく、一つの用途での活用は難しいことなど、理由から、活用が進みにくい状況にあります。

このほかにも、廃校が廃墟化することによる景観・治安の悪化が懸念されます。適正な管理が行われないと、校庭の土埃や雑草などにより周辺の環境に悪影響を及ぼすこともあります。

計画的に利活用を進め、維持管理にかかる公的負担の抑制を図ることが大きな課題となっています。

丹波市の積極的な取り組み

市においても、平成7年度以降、人口減少が続いており、青垣地域では平成29年3月末に旧佐治小学校、旧芦田小学校、旧神楽小学校、旧遠阪小学校、の4校が青垣小学校（旧佐治小学校）に統合され、3校が廃校となりました。

市では廃校施設の利活用を積極的に進めるため、廃校での事業展開を検討する民間企業を対象にした「廃校活用フェア」や、民間事業者から広く意見や提案を求める市場調査を実施しています。

現在、旧芦田小、旧神楽小は民間での活用が順調に進んでいます。旧遠阪小学校についての活用方法は未定ですが、現地見学会などを実施し、活用提案を求めています。具体的な施策があれば、地元とも内容を検討し、今後の展開につなげていくことを予定しています。



平成29年3月末に廃校となり、活用方法を検討している旧遠阪小学校

廃校利活用
 事業者
 に
 聴きました



株式会社木栄
 専務取締役 芦田 猛さん

木・森・山を守り、木に関する
 全てのことが学べる施設に



平成 29 年 3 月に閉校となった神楽小学校は、地元で製材業を営む株式会社木栄が、地場産材や国産材の魅力をもくを P R する展示や、木工工房などを併設する「FOREST DOOR しぐら」として活用しています。運営する専務取締役の芦田猛さんに廃校活用の思いなどを伺いました。

製材業のノウハウを生かし整備

通常、廃校を利用するには、水道や電気、屋根などの修繕、改修、机などの備品の廃棄などが必要になり、整備には多くの費用がかかります。

しかし、製材業をする私たちにとって残された備品は貴重な資源になりました。製材業のノウハウを生かして教室や備品を改良し、新たにテーブル、椅子など施設にとつて必要な備品として再利用することができました。

製材業をしている我が社と、廃校活用との相性は比較的良かったのかなと思います。

縁が
 縁が
 縁が

現在、「FOREST DOOR しぐら」には私たち以外にも様々な事業者が入っています。カフェや丹波布の教室など、旧神楽小の活用をきっかけに、これまで私たちと接点の無かった事業者ともかわるようになり、木材と丹波布を使った商品も開発しました。

また、旧神楽小は廃校になる前から地元の祭りなど地域行事には開放され、地域コミュニティの中心

としての役割を担っていました。神楽小が廃校となり、FOREST DOOR しぐらとして再出発してから、祭りやイベント時には場所を提供し、引き続き、地域の皆さんの交流の場としての役割を受け継いでいます。

皆さんが立ち寄れる拠点に

FOREST DOOR しぐらは今でも十分立派な施設ですが、より充実させ、木・森・山を守り、木に関する全てのことが学べる施設を目指しています。現在、「週末は田舎で、のんびり過ごしたい」と考える都会の人が丸 1 日か、それ以上滞在し、満足してもらえよう設備や企画を考えています。

また、地元の人にも、雇用や企画などを通して、これまで以上に関わってもらうことも考えており、皆さんが立ち寄れる拠点としての場所を作りたいです。

旧神楽小を利用したきっかけは創業者が神楽地区出身であることや、会社からも近かったという縁からです。その分、地元なので失敗はできないというプレッシャーはありますが、今後も挑戦を続けていきます。

旧芦田小学校

芦田集学校 (令和3年1月)

リングロー株式会社運営する芦田集学校は「教育」「プログラミング」をコンセプトに、パソコンやスマートフォンなどのIT機器の無料相談やプログラミング教室を実施しています。そのほか学習・作業ができるスペースも併設しています。

■所在地 / 青垣町田井縄371
☎ 0795-78-9956
■営業時間 / 午前9時～午後6時
Wi-Fi 環境あり
○プログラミング教室 (有料)
原則、土曜日・日曜日開催
詳細はお問い合わせください。
○絵画教室
毎週日曜日
※詳しくはホームページで確認ください



作業スペース

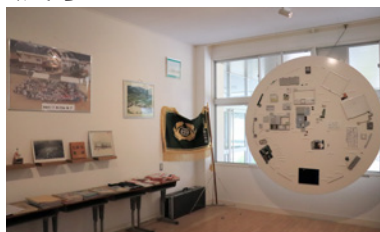


▲ミノリバ
IT機器の相談事や中古パソコンの販売などの、各種セミナーやイベントなども開催。



▲今日室 EN (きょうしつ えん)
Wi-Fi 完備のフリールームです。仕事や学びの場として活用できます。

展示



▲古今部屋 (ここんべや)
歴代の卒業文集や写真などを展示。パソコンの分解図や、集学校を運営するリングロー株式会社の再生事業についても展示しています。

教室



▲プログラミング教室

イベント企画



▲定期的に学校全体を会場に謎解きゲームなどのイベント企画を実施しています。

イベント時には私たち
氷上西高校の生徒も
手伝います！



児童支援センター

えが お 芦 田 (平成30年4月)

一般社団法人SSKTが運営する「児童支援センターえがお芦田」は特別教室棟の1階で、ドイツのスポーツ科学に基づき、発達支援コーチが子どもの発達や可能性を引き出すサポートをしています。また、すべての障がいのある人へ健康保持や生きがい促進のための教室運営、全国大会・パラリンピックにつながる支援も行っています。

巨大トランポリンなど
子どもが楽しく運動ができる
遊具がたくさんあります！



■営業時間 / 午前10時～午後5時 (火曜日から土曜日)
■対象 / 発達障がいの受給者証を持つ2歳～18歳
■窓口 / ☎ 87-2255 に相談し、見学に来てください。



旧神楽小学校

FOREST DOOR しぐら

(令和元年5月)

施設のコンセプトは「森への入り口」。地場産材や国産材の魅力をPRする展示場だけでなく、木工工房、幼児が木の玩具とふれあう教室、カフェなどを併設しています。

■所在地 / 青垣町文室244

☎ 0795-87-5511

■営業時間 / 午前 10 時～午後 5 時

○カフェ

午前 11 時 30 分～午後 4 時

○おもちゃミュージアム (中学生以上 800 円、小学生 500 円※小学生未満は無料)

午前 10 時～午後 5 時

○森の恵みストア

午前 10 時～午後 5 時

※詳しくはホームページで確認ください



体験



▲遊ぶ・学ぶ・育む 木づかいひろば
植林、伐採、製材までの一連の流れをパネルで学んだり、実際に木材に触れることができる、五感を使って学ぶスペースです。



▲おもちゃのミュージアム
触れて、見て、遊ぶ木のおもちゃミュージアムです。

展示



▲ SHIGRADA FAMILIA
国産材を用いたフローリングや壁材、家具を展示。丹波産木材の紹介も行っています。



▲木材と、丹波布を用いたユニークな案内看板



▲体育館には木材を使った災害用のパーテーション (上)、グラウンドにはテント型災害用ログモジュールを展示。

◀森のめぐみストア
木のおもちゃやインテリア、丹波で活躍する陶芸家の作品が購入できます。



廃校利活用について丹波市の取り組み

支援制度

廃校に進出した企業や廃校利活用に向けて研究、協議を行う団体を応援する補助金などの支援制度があります。
詳しくは、ホームページまたは資産活用課まで問い合わせください。



ホームページ

動画紹介

利活用可能な旧学校施設の特徴を動画で紹介しています。



Youtube